

「東京おひさまベリー」の育苗・定植技術の改善

【研究概要】

現地栽培が令和2年度から始まり、好評を得ているが、一部で育苗期の高温が要因と考えられる果房発生の抑制、収穫量の減少が報告されている。今後も高温が想定されるため、従来の露地栽培の育苗や定植の方法を見直す必要がある。

そこで、育苗・定植の時期や環境が翌春の収量に及ぼす影響を明らかにし、育苗・定植技術の改善を図るとともに、栽培期間の短縮、省力のため、マルチ敷設後の定植を可能とするポット苗利用によるマルチ春定植技術を検証した。その中で今年度は下記の2つの成果が得られた。

- (1) 仮植時期にかかわらず、10月中下旬の慣行より早い10月上旬に定植すれば、果実が大きくなり、前年度と同様に収量は慣行程度以上になることを明らかにした。
- (2) 無仮植苗であっても早期定植することで、仮植苗の慣行定植と同等の収量、品質が得られることを明らかにした。